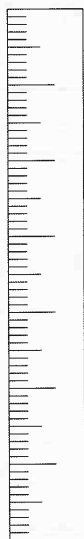




松居一代さんがメジヤールを持って考えた
徹底的に収納を重視した住い



大好きなクラシックな猫足家具の引出しには化粧品を。封筒やはがきは、立ててしまっておくと取り出しやすいことを発見。

半分の広さの住いに引越 スケッチブック片手に

八か月間考え抜いた収納家具

松居さんが収納にこだわった家に引っ越されたと伺い、さっそくお訪ねしてみました。家のドアを開けたとたん、半年前まで住んでいたモダンなインテリアの住いとは違い、フェミニンなスタイルでまとめられているのに気がつきました。「二年間お休みしていたのですが、子どもが二歳になったので、女優の仕事を再開することにしました。そうすると、前の家は七三坪の広さで、手伝ってくださるかたがいても、結局は主婦の負担が多くなるんですね。そこで、思い切って半分の広さのマンションに移り、収納にポイントを絞った家に大改造しました」基調色が黒だった内装を白と淡いベージュに替えて、床はすべてコルク張りに。各部屋ごとに、ここには何をしようか具体的にリストアップして、寸法を測りました。そのデータをもとに女性の建築家が三回設計図をおこしてくれたのが、ダイニングルームにあるお気に入りの食器棚です。上の棚は大切なグラスやティーセットなどを見せた収納にし、下の棚には扉をつけて、隠しておきたいものをしまっています。ワイン、カセットデッキ、CD、カセットテープ、アルバムなどが整然と並び、いつ、誰が開けてもわかるようになっています。引出しには既製の収納ボックスを利用して細かいものを収納。東急ハンズから実家のある近江八幡のスーパーマーケットまで、いつもバッグの中に入れたメジャーを片手に、収納用品のチェックに余念がありません。



誰が開けてもわかるようになっています。引出しには既製の収納ボックスを利用して細かいものを収納。東急ハンズから実家のある近江八幡のスーパーマーケットまで、いつもバッグの中に入れたメジャーを片手に、収納用品のチェックに余念がありません。



大きく三つに分解できるように設計してもらった食器棚。動かせないスイッチの位置は、その部分をくりぬいた。引出しの中には収納ボックスを入れて細かいものを整理。

収納の中でも圧巻なのが、ウォークインクローゼット。

嫁入り道具の洋だんすと和だんすはそのまま使ったので、これを奥に入れると、一人がやつと通れる幅しかありません。ですから、寝室側の壁に作りつけた棚は、奥行きが二五センチしかとれず、ストッパーを引出しつけた内側に付け、すばっと抜けないように工夫しました。小さな引出しの幅は同じ寸法に見えますが、手袋、スカーフ、ハンカチ、サングラスの幅に合わせて少しずつ違っていています。Tシャツもたたんでから寸法を測るなど、徹底しています。引出しの上の扉を開けると、イアリングなどのアクセサリが市販のボックスに一個ずつ入れてあります。中が見えるので、支度ができたら、その日のカラーコーディネートを考えてながら選べます。バッグは一個ずつ布袋に入れて、いちばん上の棚に。また、きものを着る機会が多い松居さんは、きものの収納も考えなくてはなりません。きものはクローゼット内の桐の和だんすに。草履は玄関に置いた透明なケースにしまったので、急ぐときに重宝しているそうです。

息子さんの隆一君の部屋をのぞくと、大好きな機関車トーマスをはじめ大小の乗り物が一杯です。自分でしようように小さい時からつけていらっしやるので、遊んだ後は自分で箱の中に。大きなものは棚にしまえます。

「ウォークインクローゼット」



きものの小物は、帯締め、帯揚げなどアイテム別に。作りつけの棚は奥行きが25センチしかないの、ストッパーが威力を。

子ども部屋



開けたときにきれいに並んでいるのが好き

一目でわかるので取り出しやすく、しまいやすい



アルバムの整理も、はったり切り抜いたり、レイアウトもなかなか。引っ越して保育園が替わったばかりなので、洋服一枚ずつに名前をつけなくてはならない。



引出しがたくさんある棚は
 中に入れるものの大きさを測り、仕切りをつけ
 探しやすいように整理して収納

「バスルーム」



を改造した洗濯室。本棚の棚板の高さは、本に合わせて替えられる。水回
 造だったので、納戸なのに費用がかかった。この向い側に洗濯機がある。

「洗濯室」



洗面所にもたくさん引出しや棚を作った。下着もこの棚に入れてあるから、入浴後の着替えに便利。家族の分を入
 れておけば、各自で管理できる。各種の洗剤や薬品も一か所に集めておくとき必要ときに探しやすい。



キッチン

バスルームの棚も、もちろんメジャーで測って左右の幅を決めました。「タオルや下着は、たたみ方が決まっています。ですから、ハンドタオルは四つ折りで二つ並べられる幅で、すぐ見えて取り出しやすい浅い引出しにしました」と松居さん。バスタオルは丸めて下の深い引出しに。薬は、引出しの中に仕切りを作り、上から見て、必要なものだけをすぐ取り出せるようになっていきます。洗剤や買いおきのせっけんなどもすべてこの棚に集中して入れてあるので、誰でも探せます。

洗濯室は元はトイレでした。もう一つあるのでつぶして、洗濯機を入れ、向い側に書棚を作りました。洗

濯が大好きな松居さん。わざわざ二槽式を使っています。

キッチンはほとんど変えていません。シンクとレンジの向い側に、白い扉をつけた食器棚を作りました。お客さま用のそろいの食器などは左の写真の奥深い棚に、普段使いの食器はすぐ取り出せるように浅い棚にと、分類してしまっています。「洗濯物は決めた大きさにきちんとたたみますし、物がきれいに並んで収まっていないと落ち着かないんです」と、仕事をしながらとは思えないほど、家事の管理もみごとです。整理するのが大好きで、その方法も身につけているからこそ、収納にもこれだけ徹底的にこだわるのでしょう。撮影 神尾典行



キッチンは、改造したときにもほとんど変更しなかったが、食器棚を作った。大皿は下の棚に、普段使いの食器は上の棚に。大勢のお客さまでも自分で料理を用意する。食器や調理器具も、使った後は元の場所に戻して、カウンターの上はいつもすっきり。

